

第6学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「【情報】情報と情報をつなげて伝えるとき」 教材名「【情報】情報と情報をつなげて伝えるとき」

2 単元の目標

情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。（〔知識及び技能〕(2)イ）

目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にすることができる。（B(1)ア）

複数の情報を関係付け、伝える目的に必要な情報を選んで示す学習の中で、言葉への関心をもち、自分の取り組みを見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。 （〔知識及び技能〕(2)イ）	①「書くこと」において、目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にしている。（B(1)ア）	①複数の情報を関係付け、伝える目的に必要な情報を選んで示す学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

複数の情報を関係付け、伝える目的に必要な情報を選んで示す。この教材では、材料カード、分類名、相手と目的、選んだ材料と選ばなかった理由を残し、言葉をどう使ったか、どう捉えたかが分かるようにする。

（2）児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

（3）指導について

独自例として学校の場所を紹介する場合を考え、場所の特徴・利用方法・自分の感想を分類する。相手と目的を決めてから必要な材料に印を付け、未確認の事実は残して調べる。想定する難しさは、思い付いた順に書き始め中心が曖昧になる、材料の多さだけを目標にする。評価では、目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にしているかを、材料カード、分類名、相手と目的、選んだ材料と選ばなかった理由と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

5 指導と評価の計画（全2時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○誰に何を伝えるかを確かめ、書く材料や最初の文を出す。 教師作成の短い資料を、共通点・原因と結果・全体と部分の 関係で整理する。	学習状況を見て支援する。
第2次	2 （本 時）	○教師作成の短い資料を、共通点・原因と結果・全体と部分 の関係で整理する。伝える相手と目的を決め、関連図から必 要な情報を選んで説明する。読み手が受け取った意味を確か め、自分の意図と違った箇所を選んで直す。残した表現にも 理由をもつ。	思①（発言・活動中の記録・作 成物）



6 本時の指導 (2/2)

(1) 本時の目標

目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にすることができる。(B(1)ア)

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・ 予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	誰に何を伝えるかを確かめ、書く材料や最初の文を出す。 ○「この情報とその情報をつなぐと、何を説明できますか」 【めあて】複数の情報を関係付け、伝える目的に必要な情報を選んで示す。 〈予想される児童の反応〉 ・ 似た内容はまとめられる。	最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。
展開 (分)	○「この情報とその情報をつなぐと、何を説明できますか」 教師作成の短い資料を、共通点・原因と結果・全体と部分の関係で整理する。伝える相手と目的を決め、関連図から必要な情報を選んで説明する。 読み手が受け取った意味を確かめ、自分の意図と違った箇所を選んで直す。残した表現にも理由をもつ。 〈予想される児童の反応〉 ・ 似た内容はまとめられる。 ・ 詳しいけれど今回の目的にはいらない材料もある。 ・ 足りない所は確かめてから書きたい。	独自例として学校の場所を紹介する場合を考え、場所の特徴・利用方法・自分の感想を分類する。相手と目的を決めてから必要な材料に印を付け、未確認の事実は残して調べる。 想定する難しさ：思い付いた順に書き始め中心が曖昧になる、材料の多さだけを目標にする。 評価では、目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にしているかを、材料カード、分類名、相手と目的、選んだ材料と選ばなかった理由と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。 ◎思① 目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にしている。(発言・活動中の記録・作成物)
まとめ (分)	【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。 材料カード、分類名、相手と目的、選んだ材料と選ばなかった理由を見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確かめる。 〈予想される児童の反応〉 ・ 足りない所は確かめてから書きたい。	教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確かめる。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。 ◎態① (最初と最後の記録、見直しの理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「この情報とその情報をつなぐと、何を説明できますか」。中央は、材料カード、分類名、相手と目的、選んだ材料と選ばなかった理由に必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

